

私は『議案69号、国分庁舎増築工事請負契約』の提案について反対の立場で討論に参加いたします。

議案70号、空調設備工事、議案71号、エレベータ工事の請負契約も同様の議案でありますことから、討論に含めます。

議員とかたろ会で多くの地域で周辺地域の活性化、人口減少についての相談を受けました。支所はどうなるのか？ 支所の職員は減るのか？ 周辺地域を切り捨てるのか？ 医師会病院に行くバス路線を作れないか？ 周辺地域には住むなというのか？ などの厳しい指摘を受けました。

市長は3月議会で『国分庁舎の増築計画の主たる目的は、職員の定員適正化を図り、限られた職員で、より効果的・効率的な行財政運営を行うとともに、市民サービスを効果的、効率的に提供し、その利便性の向上を図るため、必要最小限の執務スペース及び会議室を確保することにある。』と答弁されました。必要最小限と言いながら25億円近くに上る巨額な出費です。

さらに『3期目の市長任期をもらったことで基本設計、実施設計に要する経費を平成26年度の当初予算に提案し、市民の代表である議会の議決を受けたことから、市民の皆様のご理解は十分に得られているものと認識する。増築しようとする庁舎を含めた国分本庁舎は、市街地に住む方々のためにあるのではなく、霧島市民全体のものであることを是非ご理解いただきたい。』と答弁されました。

地域審議会の好意的な意見の紹介もありましたが、霧島町の地域審議会の委員さんは『説明を受けただけであって、そのことに対する賛否の問いかけは無かった』と言われました。福山での議員とかたろかいでは地域審議会委員さんの好意的意見とは逆に人口減少、過疎化への不安を聞きました。本当に市民の理解が得られているのか。議員はともかく市民の皆様が理解が得られているとは到底思えません。

一方、市周辺部の活性化について市長は『国分庁舎の増築とは別に、解決すべき重要な課題の一つであり、全庁を挙げて取り組んでいかなければならないと認識しており、今定例会に提案している補正予算や来年度当初予算にも地方創生関連経費をはじめとする各種経費を計上している。』と述べられました。

支所活用策も未だ示されません。周辺部は活性化どころか、衰退は日に日に進み、箱物を作る計画だけは着々進みます。国分市街地、隼人市街地にお住まいの議員諸氏は市民の利便性向上が図られるとの市の提案に頷かれることは止むを得ません。しかしながら国分、隼人以外の周辺部にお住まいの議員諸氏の耳には市民の方々から深刻な問題としての訴えが届いているはずで

す。市庁舎が拡張されましたら、当然支所の職員が本庁に移ります。支所の職員が少なくなり、周辺地域にお住まいの方々の利便性は下がります。これからは行政手続きが支所で完結しなくなり、手続きのために国分庁舎までわざわざ、行かねばならなくなるでしょう。

私は周辺地域にお住まいの方々の声をお伝えすることが議員としての責任であるとの想いでこの議案に反対します。周辺地域にお住まいの議員諸氏の賛同をお願いします。